



鈴木重男町長から定住奨励金の交付を受ける斎藤龍也さん

移住・定住をサポート 4世帯に補助金を交付

定住奨励金(2件)、定住対策住宅取得支援補助金(1件)、新婚ライフサポート金(1件)の交付式は6月12日、町長室で行われ4世帯にそれぞれ補助金が交付されました。

鈴木重男町長は「若い方々が安心、安全な環境で日々暮らすことができる町を目指しています。一緒に暮らそうと情報発信をしていただきながら、今後の活躍を期待します」とあいさつ。定住奨励金の交付を受けた町森林組合に勤務する斎藤龍也さん(23歳、田野)は「将来のために貯蓄したいです」と感謝していました。

清らかな水を守る 馬淵川源流祈願祭

町観光協会(遠藤裕樹会長、団体会員10団体、個人会員9人)主催の源流祈願祭は5月31日、馬淵川源流公園で関係者ら25人が出席し、行われました。

主催者を代表して遠藤勝広副会長が「環境整備を通じて、清流を守り続けていきたい」とあいさつ。続いて鈴木重男町長が「源流の町としての大きな役割を果たしながら情報発信していきましょう」と祝辞を述べました。馬淵川の源流は2市4町を流れる延長142kmの一級河川で、青森県八戸市につながっています。



豊かな水の恵みと水災害の厄よけを祈願する出席者の皆さん

町観光協会 環境整備行

町観光協会員らは5月24日に、袖山高原の馬淵川源流公園の環境整備を行いました。また、5月31日には、森のこだま館国道沿

いの駐車場周辺にヤマツツジ40本を植樹。これらの取り組みは、同協会が町の観光振興につなげようと、毎年行っています。



①草刈り機を手に馬淵川源流公園の環境整備を行う会員ら②誘客を願うヤマツツジを植樹



真剣な表情で下絵に色を塗る園児たち

コロナに負けるな！ 五保でポスター作成

五日市保育園(畑中節代園長囑託員、園児16人)は5月21日、新型コロナウイルス感染症予防を呼び掛けるポスターを作成しました。

園児らの特徴を捉えた顔を保護者が下絵。子どもたちは自分の顔を探し出すと、筆を使ってみるみるうちに色を塗り終えていました。

最後は、マスクをイメージした布を口の部分に貼り、かわいらしい顔が完成。同ポスターは道の駅くずまき高原の公衆トイレ入り口に掲示され、訪れた人たちに感染症予防のメッセージを送っていました。

自転車で袖山高原へ ヒルクライムに挑戦

6月14日、くずまき型サイクルツーリズムを推進するくずまき型DMO事業に関わるメンバーがサイクルイベントを企画し、11人が参加しました。走行中の注意やタイヤの空気圧を確かめ出発。アシスト(電動)自転車とロードバイクで江刈川から袖山高原に登り、五日市に抜ける約40%を走行し心地良い汗を流しました。

始めは急な峠道を登り切れるか心配する声もありましたが、いざ走行してみると、会話を楽しみながら順調に坂道をこぎ進め、アシスト自転車の効果も実感していました。



一列に並び町内を快走する参加者の皆さん

ロードバイクで袖山高原のヒルクライムを楽しむ大石空さん



参加者の声

ロードバイクで参加した大石空さん(葛巻高2年)は「袖山高原までの坂はとてもきつかったけれど、アシスト自転車なら、もっと楽に登れると思う。壮大な景色が疲れを忘れさせてくれました」と充実した表情をのぞかせていました。大石さんは、高校で取り組む「総合的な探求の時間」の学習でサイクルを活用した観光を検討中。自転車を使い、町の観光の一つとして盛り上げるための方法をグループのみんなと話し合っているそうです。さまざまな年代の人たちと交流を深めながら楽しむサイクルイベントに参加し、町の新たな観光資源のヒントを得たようでした。